

創立145周年

学校便り

令和3年度

No.11



進取

令和4年3月8日発行

阿久根市立阿久根小学校
27学級 児童数435名

新しい人間関係づくりに向けて ～みんなの笑顔のためにできることを考えよう～

校長 深川 光久

いよいよ、卒業と修了の月となりました。子供たちはこの1年間で、学習面、体力面、人間関係面で大きく成長したと思います。無事にこのように1年間を終えられそうな状況にあるのは、ひとえに保護者や地域の皆様のご理解とご協力の賜だと思えます。特に、新型コロナウイルス感染症対策においては、毎日の検温や各種行事でのご協力をいただきました。学級PTAや授業参観が中止となり、学校での様子が分かりにくかったところもあるのではないかと思います。御理解いただき有り難うございました。

さて、私は4月の始業式で子供たちに「みんなの笑顔のためにできることを考えよう。」と話しました。自分たちの学級や学校がみんな楽しくなるためには、担任まかせにし、担任一人で学級をつくっていくのではなく、子供たちにも自分たちで考えてほしいのです。学級で泣いた子がいたり、いじわるをされたりした子がいた場合、いつかは先生が気付いてくれるだろうと考え何もしないのではなく、自分のこととして考え学級をよくするために、みんなが気持ちよく過ごせる方法を話し合える学級にしてほしいのです。1学期のPTA総会でもお話ししましたが、子供たちに当事者意識をもって生活してほしいのです。すぐにできることではないかもしれませんが、今年1年間なんとか学校全体が落ち着いた状態で終わられる状況にありますのできっと子供たちも頑張ってくれたのではないかと思います。人間関係においても、1年間楽しく過ごし成長した子供たちをぜひ褒めてあげてください。

阿久根小学校では、1学期にQ-Uという心理検査を行っています。この検査をすることにより、子供たちの学級満足度や学校生活意欲、学級集団の特徴や一人一人のソーシャルスキルの状況が分かります。この結果を元に、担任はソーシャルトレーニングや総合的グループエンカウンターなどの人間関係づくりの活動を行い、学級集団をよりよい集団にしようとしています。

毎年学級編制があり、新しい友達とコミュニケーションをとりながら、自分の居場所を新しい学級につくっていくことはなかなか大変なことだと思います。ストレスを感じる部分もあるでしょう。しかし、このような経験を繰り返し、上手に友達に自分から話しかけられるようになったり、ひとりぼっちの子供を気遣い仲間に入れようとしたりする力は、将来中学校、高校、社会人と新しい集団に入っていくときに必ず役立つと考えています。私たち人間は常に社会の中で生き、人とのつながりの中で生きています。勉強だけでなく、人との付き合い方も学校という集団の中で自然に学んでいるのです。

学年の変わり目を節目として、子供たちにとっては新しい学級集団への適応のトレーニングが始まります。保護者の皆様は、心配なところもたくさんあると思いますが、お気付きの点がありましたら遠慮なく担任にお伝えください。悩んでいるところは早めに共有し、対応できるようにしたいと思います。